



© Yuki Nakase

Candy Apple \$3.00 at New York Street Fare

## 時給三ドル？

アメリカにおける舞台照明デザインという職業について、ニューヨークで生活し舞台照明業界に足を踏み入れるまで知らなかったことがあります。それは、舞台照明デザインの仕事だけでは食べていけないという現実です。ニューヨークを拠点に活躍する舞台照明家の中で、舞台照明デザインから得られる収入だけで生計を立てているのは10人程度でしょう。

照明デザインの仕事からどの程度の収入が見込めるのか。ニューヨーク・チェルシー地区における集合住宅地の月額新規賃料は、購買力平価概算で東京都練馬区豊玉北の約1.2倍であることを前提として、舞台照明家仲間の中でよく言われるのは「一公演のデザインで最低500ドルはもらおう」です。一公演のデザイン料とは、リハーサルと打ち合わせに参加し照明プランを立てて図面を作成する事前準備と、搬入からオープニングまで劇場における約一週間の拘束を含みます。ブロードウェイ劇場における一公演のデザイン料で「驚くほど安かった」と聞いたのは5000ドルです。打ち合わせからオープニングまで6ヶ月ほど費やすブロードウェイの作品で5000ドルとは、小劇場の「最低500ドル」に匹敵するほど低賃金です。

従って、ほとんどの照明家は副業で生活を維持しています。副業で多く見られるのは、照明デザインの教職と照明デザイン・アシスタントです。特に駆け出しの照明家は、自身のキャリア形成とネットワーク作りにより有利なアシスタントの仕事を率先して受けます。ブロードウェイ劇場でのアシスタントの最低賃金は一週間1400ドル、オフ・ブロードウェイやダンスカンパニーの公演におけるアシスタントの最低賃金は一週間300ドルから400ドル、ユニオンに所属しないエレクトリシヤンの平均時給は20ドルから30ドルです。デザイナーよりもアシスタント、さらにはエレクトリシヤンの方が稼ぎの良い事実が明らかです。

生活が苦しい中でも舞台照明に携わろうとするのは「好きだから」という理由にはかならず、照明家はこの職業の社会貢献率と芸術性に強い信念を抱いています。ただし、低賃金が引き起こす数々の問題を無視するわけにはいきません。生活を維持するために多くの仕事を同時に抱えるため、必然的に一公演あたりに費やす時間が減り、また睡眠不足が招く失敗と健康被害は深刻な問題です。社会が舞台芸術と舞台照明に重きを置かない限り、この現状は変わらないでしょう。